

特別活動で子どもを育て、学校生活を創る ～汎用的能力の育成を通して～

文部科学省初等中等教育局 杉田 洋視学官は「特別活動で子どもを育て、学校生活を創るというテーマ」で講演をされた。そのキーワードは「汎用的能力の育成」であった。

教員、中でも「学級担任」は、特別活動（学級活動）を通して、学級づくりの基盤を形成し、その上で各教科で育むべき能力を十分に伸ばそうという気構えで教育活動にあたるべきである。いわゆる「健全な学級づくり」が根底に流れているからこそ、「健全な教育活動」が保障され、心身ともに「健全な子ども」が育つのである。

杉田視学官は、こうした特別活動の本質を生かしつつ、特別活動で培われた力を、学校生活のあわゆる場面で「汎用的に」活用していこうとすることが今後の教育的課題を解決することにつながると説かれた。

特別活動の育てたい能力は大きく分けて3つある。「自己の生活上の課題を解決する能力」「よりよい社会づくりに参画する態度や自治的能力」「集団の一員としての人間関係形成能力」である。

中でも、「自己の生活上の課題を解決する能力」は、子どもの内に視点を与えたり、教師が意図的に問題や課題を見い出す目を育てておくことが大切であると述べられた。

今、私が所属する学校では、子どもたちはとても素直であり、教員が求めることを一生懸命に頑張ろうとする「健全な小学校」である。しかしながら、教員が子どもたちをすべてリードし過ぎてはいないだろうかという懸念がある。本来、子どもたちが自ら見付けてほしい課題までも教員がリードし過ぎる学級経営の中で「消化(昇華)」してしまっていないだろうか、ということである。

現場の人員構成がここ数年大きく世代交代する中、特別活動、とりわけ学級づくりの基本理念は変わらない。しかし、目の前の子どもや保護者たちも世代交代をしている。だからこそ、これまで大切にしてきた特別活動の基本はゆるがないように努めつつ、一方で「子どもたち自らが、自分たちを律する」という視点を培い、「自己の生活上の課題を解決する能力」の育成に努めなければならない。

「汎用的」とは「(学んだことを) どの場面でも生かすことができる」という意味としてとらえる。ということは、各学校でさかんに行われている特別活動（学級活動、学校行事、委員会活動、クラブ活動）で培われた力を、他の場面でも生かすように努めればよい。

特に、運動会では、多くの練習を積み上げてきた達成感をエネルギーとして、「あいさつ運動」や「規律を正す」行動に結び付けていくことはできないだろうか。「健全な子どもたち」のエネルギーを、学校生活上の様々な場面で「汎用的に」生かすよう努めていきたいものである。

防災教育の展開第5章より 文部科学省HP

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/

本章では、第2章P11「発達の段階に応じた防災教育」の目標に準じて、各校種ごとの目標及び防災教育年間計画例、具体的な授業展開例を示している。目標の設定にあたっては、学校の立地環境や施設設備の状態、地域との関わりの状況や児童生徒等の実態等に応じ、適切に行われることが重要である。また、「発達の段階に応じた防災教育」の目標は、幼稚園から高等学校までを見据え、知識や技能の習得、意識や行動、態度等について、それぞれの校種の段階による指導が積み重ねられることによって達成されるものとして示されている。(中略)

このことから、各学校において目標を設定する際には、児童生徒等が前学校段階や地域・家庭において身につけている防災に関する態度や知識・技能の程度（レディネス）を確認し、その実態に応じたものにすることが必要である。

防災教育の展開例より小学校 特別活動編を抜粋 (○数字は展開例の掲載番号)

- ⑨火事になったら 特別活動 学級活動
- ⑩地しんが起ったらどうするの 特別活動 学級活動
- ⑪休み時間に大地震おきたら 特別活動 学級活動
- ⑫どうする？大雨だ、大雨だ強風だ、かみなりだ 特別活動 学級活動
- ⑬いざという時の備えは 特別活動 学級活動
- ⑭町の中でぐらっときたら 特別活動 学級活動
- ⑮火災を想定した避難訓練 特別活動 学校行事
- ⑯地震を想定した避難訓練（緊急地震速報） 特別活動 学校行事
- ⑰津波を想定した避難訓練 特別活動 学校行事

中学校展開例より 特別活動編を抜粋

- ⑧災害後の暮らし 特別活動 学級活動
- ⑨地震を想定した避難訓練（緊急地震速報） 特別活動 学校行事
- ⑩校内避難訓練（竜巻への対応） 特別活動 学校行事

※ この章には、防災教育年間計画も掲載されている。また、幼稚園や高等学校まで系統的に展開例が示されている。各学校の地域の特性に合わせて活用することが望ましいと思われる。

「防災教育」についての情報

「子どもの安全を守る！」学校生活のチェックポイント&防止策50から

坂野重法編 明治図書発行 (2012 11月初版)

まえがきより抜粋

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では多くの児童生徒が行方不明になり学校管理化で多くの犠牲者を出した学校もあった。この悲惨な状況から学ぶ教訓を生かし、安心・安全な学校づくりをすることが使命である。

(中略)

1 学校計画安全計画の充実

学校安全計画には、安全管理だけでなく、避難訓練を含めた安全教育の内容も盛り込み、充実させることが重要である。また、定期的な点検活動を取り入れ、修正を図らなければならない。PDCA サイクルの中でより効果的な安全計画を充実させる必要がある。

2 安全教育の充実

安全教育では、まず第一に、事件・事故発生時に子ども自らが、危険を予測し、回避し迅速な行動をとることができる力（危機回避能力）を身に付けさせることが大切である。(中略)

「釜石の奇跡」の教訓では、日頃の避難訓練により、子どもたちが率先避難者となり、危険を予測し、自らの命を守った。このように、安全管理の面と安全教育の面からの充実を図ることで、子どもたちが自らの命を守ることができる基礎的な素養を、組織的に育成していくことが重要であると考え、本書を編集した。

1章 今、求められる学校安全

2章 教育活動における事故・事件例と防止策

1 校内における教育活動中の事故・事件例と対応策

(1) 授業時間 (2) 給食時間・授業時間 (3) 授業後 (4) その他

2 校外における教育活動中の事故・事件例と対応策

(集団宿泊的行事(野外活動中・修学旅行中・遠足など))

3章 学校施設管理の瑕疵が問われる事故・事件例と対応策

4章 学校周辺での事故・事件例と対応策

5章 不審者による事件と対応策

6章 学校安全計画の作成

※ 内容すべてが大切であるが、特活の内容と関連付けられる章は、特に2章の2である。しかしながら、危機回避を進める「防災教育」の拠り所として熟読しておきたい一冊である。

千年に一度の超巨大津波に襲われた東日本大震災から明日で3年。被災地の調査を続ける中で、常々思い知らされるのは「津波てんでんこ」の教えの正しさだ。

てんでんことは各自のこと。海岸で大きな揺れを感じたときは、津波が来るから肉親にもかまわず、各自てんでんばらばらに一刻も早く高台に逃げて、自分の命を守れ—という意味だ。

この教訓に基づき、片田敏孝・群馬大教授（災害社会学）の指導で津波からの避難訓練を8年間重ねてきた岩手県釜石市内の小中学校では、全児童・生徒計約3千人が即座に避難。生存率99・8%という素晴らしい成果を挙げて「釜石の奇跡」と呼ばれた。

同市北部に位置する鵜住居（うのすまい）町の海岸線から約800メートル、海拔約3メートルの川沿いの低地に並んで建っていたある中学校と小学校の事例を見てみよう。

平成23年3月11日。午後2時46分に東日本大震災が発生すると、**中学校の副校長は教室から校庭に出始めた生徒たちに、「(避難所へ) 走れ!」「点呼など取らなくていいから」と大声で叫んだ。**

そして**若い教職員に、率先避難者**となって生徒たちと避難所へ走るよう指示。避難所は約700メートル南西の福祉施設で、**所在地は訓練で全生徒に周知**していた。

当初、一部の生徒は走らず、校庭に整列しようとしたが、副校長らは懸命に「逃げる」「走れ」と指示。そのため全員が校門を出て、避難所へと駆けだした。

一方、**小学校**は耐震補強が終わったばかりの鉄筋コンクリート造り3階建ての校舎で、雪も降っていたことから、**当初は児童を3階に集めようとしていた**。しかし、「津波が来るぞ」と叫びながら走っていく中学生らを見て、**教職員は避難所行きを即断。小学生も一斉に高台へ走り出した。**

このとき、小学校には保護者数人が児童を引き取りに来ていた。教職員は児童を避難させたことを説明し、一緒に避難することを勧めたが、1人は児童をつれて帰宅し、津波の犠牲になってしまったという。

避難した小中学生約600人は、標高約10メートルの福祉施設に到着したが、裏手の崖が崩れそうになっていたため、**中学生らがもっと高台への移動を提案**。さらに約400メートル離れた標高30メートルの介護施設へ、**小学生の手を引きながら避難した。**

この直後、津波遡上（そじょう）高は20メートルに達し、福祉施設は水没。「津波てんでんこ」の教訓と、**防災意識の高い中学生の冷静な状況判断が、多くの命を間一髪で見事に救う結果となった。**（つじ・よしのぶ 建築研究所特別客員研究員＝歴史地震・津波学）

「人権教育」についての情報

名古屋市教育課程から

編成の要点より抜粋

特別活動が、よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることを一層明確にするために、目標に「**人間関係**」を加えた。

また、道徳的実践の指導の充実を図る観点から、「**自己の生き方**」についての考えを深め、「**自己を生かす能力**を養う」を加えた。

名古屋市教育課程特別活動編に「人権教育」のキーワードと思われる「人間関係」で検索をかけてみた。各学年及び発達段階を踏まえて、人権教育にかかわる題材が用意されている。

<具体的な実践例>

- 小学校 1年 「みんななかよし」
- 4年 「やさしい言葉遣い」
- 5年 「思いやりのある言葉」
- 6年 「男女の協力」

上記題材以外にも、教育課程上（人）と記される題材があり、望ましい人間関係を築くための題材例が豊富に用意されている。

名古屋市の中でも人権に配慮する指導を進めている学校から

単学級のように人数の少ない学級では、学級の中だけでの活動では「自己満足」に陥ることが多々ある。そこを打破して、次の活動へステップアップし、なおかつ、他者からの評価を得られるように、教師が意図的・計画的に活動を進める必要がある。

そこで、「学級の枠を越えた交流」を行うことによって、自己満足の活動から、「次はこうしよう」「もっと交流していきたい」というような言葉を児童から引き出し、本当の満足感・達成感を味わわせたい。

発達段階から、人権教育を継続的に実践を行うためには、児童の発達段階を考え、次のようなキーワードを重点とする必要がある。

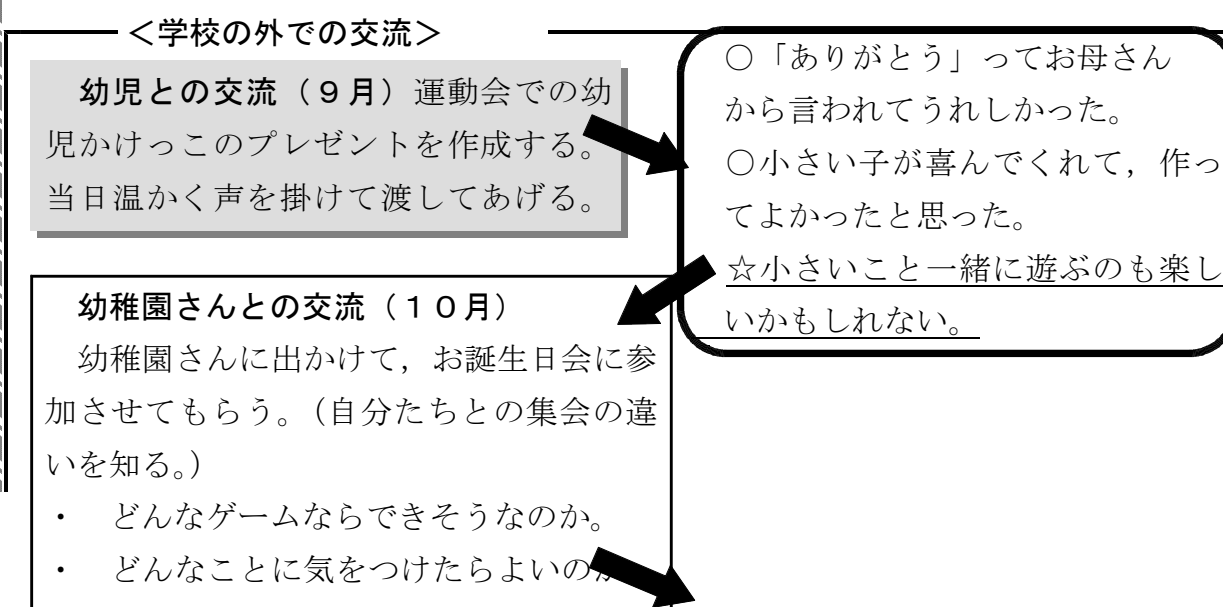
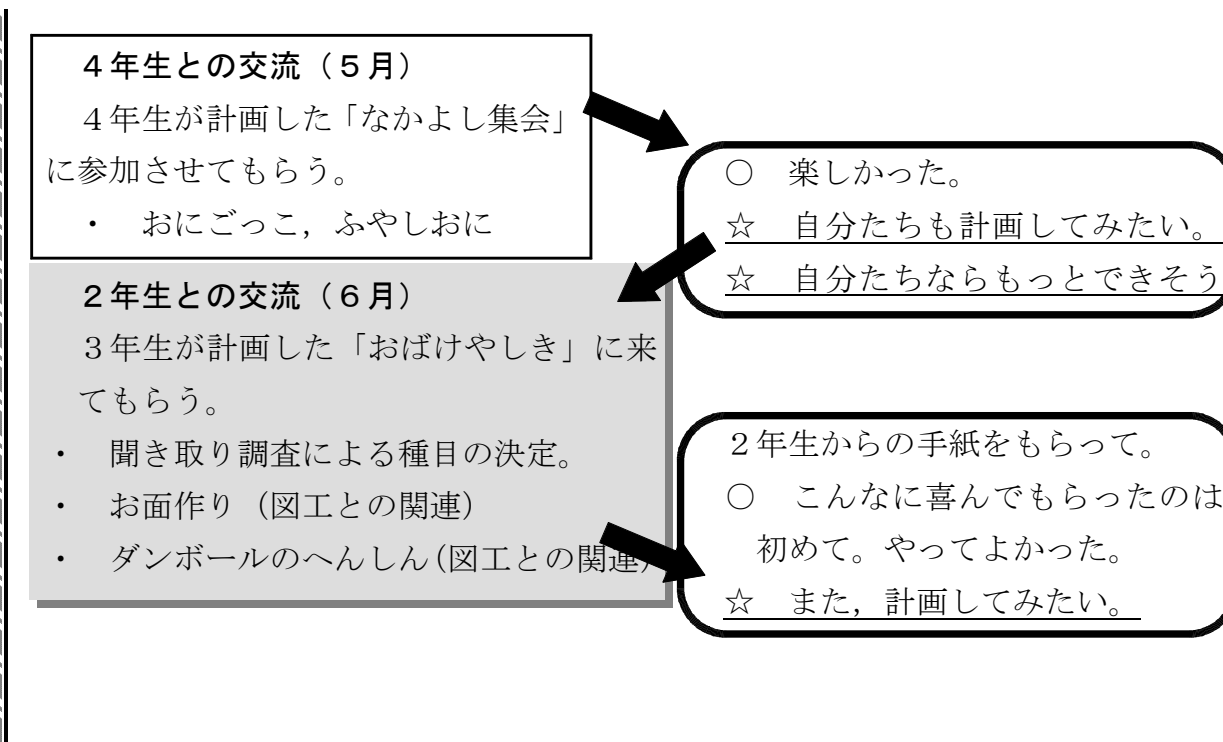
	中学年「違いを考えて」	高学年「立場を認めて」
低学年「なかよく」	<input type="checkbox"/> 異学年との交流	<input type="checkbox"/> 障がいのある方との交流
<input type="checkbox"/> 学級内での交流	<input type="checkbox"/> 幼稚園さんとの交流	
<input type="checkbox"/> ペア学年での交流	<input type="checkbox"/> 高齢者との交流	

こうした努力点との関連から、「(相手との) 違いを考えて」をキーワードとして異学年との交流や幼稚園さん(幼児)との交流を考えた3年生の実践を例示する。

実践の流れ図



○ 活動への満足感 ☆ 次の活動への意欲(こちらを引き出したい)



幼稚園さんとの交流（11月）

学芸会へ幼稚園さんを招待する。

- ・ 招待状を作る。
- ・ 劇を見せる。
- ・ 感想を聞く。

○ 同じように遊ぶのは危険。
ゆっくり、落ち着いてが大事。
☆ 遊んであげるも大切だけど、
ぼくたちが今度やる学芸会を見
せてあげるのもいいと思う。

○ かっこいいって言ってくれた。
○ 上手だねって言ってくれた。
☆ もっとうまくなっているいろ
いろな人たちに見せたい。

幼稚園さんとの交流（2月）

学校行事「春まつり」に招待する。

- ・ 招待状を作る。
- ・ 昔の遊びコーナーと一緒に遊ぶ。
(社会科との関連)
- ・ リサイクル工作で遊ぶ。
(総合的な学習の時間との関連)

○ 教えながら遊ぶって楽しい。
○ 幼稚園さんが、結構上手なの
に驚いた。
○ 本当になかよくなれた気がする。

人権教育 人権教育に関する特色ある実践事例 文部科学省HPより

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/jirei/1321770.htm

文部科学省においては、学校における人権教育の一層の推進に資するため、「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」による「第三次とりまとめ」（平成20年3月）や「人権教育の推進に関する取組状況の調査結果」（平成21年10月）等の趣旨を踏まえた特色ある実践事例を、ウェブサイトにて紹介していくこととしました。

この事例集は、文部科学省から各都道府県教育委員会に対して、学校における人権教育の特色ある実践事例の提供を依頼し、学校の執筆による事例を収集したものです。

事例は、各都道府県別一覧、学校種別一覧のほか、学校が自らの取組を執筆する際に特色として着目した観点別の一覧からもご覧いただくことができます。

また、各事例ごとに、「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」による解説コメントを付しています。

各地域・学校における人権教育の推進のため、本事例集をぜひご活用ください。

(HPより全文掲載)

実践事例の観点別一覧

- 学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが、組織的かつ効果的に進められている実践事例
- 学校としての点検・評価が組織的に行われ、PDCAサイクルが効果的に機能している実践事例
- 地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例
- 価値的・態度的側面のみならず、知識的側面や技能的側面に関する指導がバランスよく行われ、実践力・行動力の育成につながっている事例
- 学校種間の接続・一貫性を追求した実践事例
- 各教科等における特徴的な指導の実践事例
- 個人権課題をテーマとして効果的に取り扱った実践事例
- 協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例
- その他指導内容や指導方法において、特徴ある工夫が行われている実践事例
- 指導に関する校内研修の工夫改善に取り組む実践事例
- 学校が地域等と連携して研修に取り組む実践事例

※ 実践例は豊富である。その内容が観点別ごとにまとめられているだけでなく、平成23年度から経年ごとに、また、都道府県別にもまとめられている。

文部科学省リーフレットを活用しましょう！

〇〇教育と特別活動との関連 リーフレットP4について

新しい教育課題に対応する観点から、学校には各種の「〇〇教育」の充実が求められています。特別活動に期待されているのは、特別活動が「〇〇教育」に関連する内容を多く含んでおり、児童が自らの問題として自主的・実践的に取り組めることです。

1 キャリア教育と特別活動

学級会で学級生活を楽しく豊かにするために話し合ったり、委員会活動で学校生活をよりよくする活動に取り組んだり、勤労生産・奉仕的行事で学校や地域社会、公共施設等の清掃活動に取り組んだりすることは、人間関係形成能力や情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力などのキャリア発達にもつながります。

<取組の例>

学級活動において

「清掃などの当番活動等の役割と働くことの意識の理解」

- ・ 当番の仕事を最後までやり遂げるための目標や方法を自己決定して実践します。

2 食育と特別活動

給食委員会の児童が食事と健康に関する内容を発表する活動に取り組んだり、家庭科クラブで野菜を調理する活動に取り組んだりすることは、食事の重要性や心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化という食育の目標に沿って示された食に関する指導内容を学ぶことにもつながります。

<取組の例>

児童会活動において

「児童会の計画や運営」

- ・ 給食委員会で、よく噛むことの大切さを全校に知らせるために、全校集会でペープサート劇や調べたことの発表をします。

3 人権教育と特別活動

学級会で賛成が少ない意見でも、取り入れることができないか考えながら話し合ったり、みんなで話し合った役割分担に沿って自分の責任を果たしたり、学校行事で老人ホームや養護施設などを訪問したりすることは、多様な人と関わる共生社会の担い手として必要な人権感覚を育成することにもつながります。

<取組の例>

学校行事において

「老人ホームのお年寄りとの交流」

- ・ 学校に隣接する老人ホームを訪問して、学級会で話し合ったクイズをしたり、みんなで練習した合奏を発表したりします。



←「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター HP から
ダウンロードできます。ぜひ、ご活用ください！

「いじめ防止教育プログラム」を活用しましょう！

「いじめ防止教育プログラム」は、平成26年3月に名古屋市教育委員会から刊行されました。全市の公立小中学校に配布された冊子には、指導の展開の仕方やポイントが分かる実際の学級活動の映像を用いたDVDが添えられています。本研究会の会員の先生も何人か、本プログラムの制作に携わりました。積極的に活用し、いじめ防止に向けた取り組みを推し進めていきましょう。

1 本プログラムの成り立ち

「Ⅰ 本プログラムの活用にあたって」「Ⅱ プログラム年間計画」「Ⅲ 授業展開例」「Ⅳ 資料」で構成されています。「Ⅳ 資料」では、DVD映像資料についてのねらいや視聴のポイントなどが紹介されています。

2 プログラム年間計画について

特別活動と道徳の時間を用います。小学校下学年、小学校上学年、中学校とそれぞれの発達段階に応じて、1学期に2時間、2学期に2時間、3学期に1時間実践を行うものです。特別活動、道徳、生活指導のそれぞれの視点から意見を持ち寄り、どんな内容をいつ指導するのがより効果的なのかを、よく吟味した上で例示しています。全体の流れをくんで、子どもの成長を促すようにすることが大切です。

3 授業展開例について

- | | |
|---|------------|
| 1 | プログラム名 |
| 2 | ねらい |
| 3 | 実施時期 |
| 4 | 実践を行うにあたって |
| 5 | 指導過程 |
| 6 | 評価 |
| 7 | 資料 |

全ての展開例とも、左記の内容で構成されています。「4 実践を行うにあたって」では、実践の基本的な考えやポイント、資料の使い方、事前や事後の活動についてなどが丁寧に解説されています。「7 資料」は、そのまま増刷りして実践に用いることができるよう工夫されています。

4 DVD映像資料について

授業展開例を担当した先生が実際に授業を行い、どの実践も20分程度に編集してあります。ポイントとなる発問や指示、助言、生徒の発言などが示されていたり、指導の流れや留意点などがテロップで挿入されていたりするので、事前の教材研究やいじめ防止に関する現職教育など、様々な活用できます。紹介されている実践は、

小学校下学年、小学校上学年、中学校それぞれについて、特別活動、道徳、生活指導の各視点による3実践ずつです。

5 特別活動の視点による授業展開例紹介（ の展開例はDVDに収録）

<小学校下学年>

みんなでつくろう楽しい学級（7～10月）

友達の行動の良さを互いに見付け合い、その良さをもとに、楽しい学級をつくるために自分ができることを考えようとする。【態度】

- 友達の行動の良さ、自分の行動の良さに気付かせる手立てを紹介

すてきなお兄さん、お姉さんを目指して（2学期中頃）

上級生と行った集会活動について振り返り、自分が頑張ったところや褒められたこと分かったと共に、上級生に対して尊敬の念や憧れをいただき、自分もそうなろうとする。【知識・態度】

- 縦割り学級活動において下級生に自己有用感を高める手立てを紹介

<小学校上学年>

学級ギネス大会をしよう（10月頃）

記録を伸ばす方法を話し合い、目標達成のために一人一人が自分にできることを考え、みんなで協力して活動しようとする。【態度】

- 課題を見付け全員で協力して記録の向上を目指す集会活動の留意点を紹介

自分らしさを発揮して（2月頃）

友達と互いの長所を認め合い、長所を生かす取り組みについて話し合うことを通して、自分や友達を共に大切にしながら、前向きに生活しようとする。【態度】

- 小学生におけるリフレーミングの手立てと長所の今後への生かし方を紹介

<中学校>

心のこもった言葉を使おう ～ビーイングの手法を用いて～（5月頃）

言葉が人の心に与える影響について気付き、仲間と良好な関係を築く言葉を用いていこうとする。【知識・態度】

- 言われてうれしい言葉、悲しい言葉を日常的に意識し生活させる手立てを紹介

見方を変えれば…リフレーミング活動（2学期：行事において役割分担をする前）

自分の短所と思えることも、見方を変えれば長所にもなることをが分かる。【知識】
一人一人が自分の性格を前向きにとらえ、自分のもち味を受け入れ、互いの信頼関係を深めようとする。【態度】

- 互いの短所を長所と見なし学級活動に積極的に生かしていく手立てを紹介

<実践に生かしたい最新の研究情報：自尊感情の成り立ち>

ここでは、自尊感情（セルフエスティーム）に関する最新の研究を紹介します。最近の実践には、自己肯定感、自己有用感、自己効力感、自己有能感などがよく取り上げられます。どれも自尊感情に関連した言葉で、子どもの心の状態を語るものです。自己肯定感、自己有用感などの言葉を使用する際には、それぞれの言葉について、実践者が定義づけをして実践を進めていることでしょうか。しかしながら、最近の研究においては、自尊感情というものは、複雑な成り立ちをしているということが明らかになってきています。

以下の自尊感情の捉え方に沿って、自分の実践が、子どもたちの自尊感情のどの部分の感情を育てるものなのかをはっきりさせることが、より有効な実践につながることでしょう。また、これから実践に取り組む先生も、この捉え方を意識してみてはどうでしょうか。

【ポイント：実践の前後で、2つの自尊感情の変化を捉えていきたい！】

1 自尊感情は、基本的自尊感情と社会的自尊感情の組み合わせによって成り立つ

大人は子どもを褒めたり、認めたりして自尊感情を高めようとしてきました。しかし、そうすることで高まるのは、自尊感情の一部なのです。最も大切なのは、あるがままの自分を受け入れ、自分をかけがえのない存在として認める感情です。その感情が、自尊感情の基礎を支える大切な感情なのです。自尊感情は、次のような2つの感情から成り立っています。

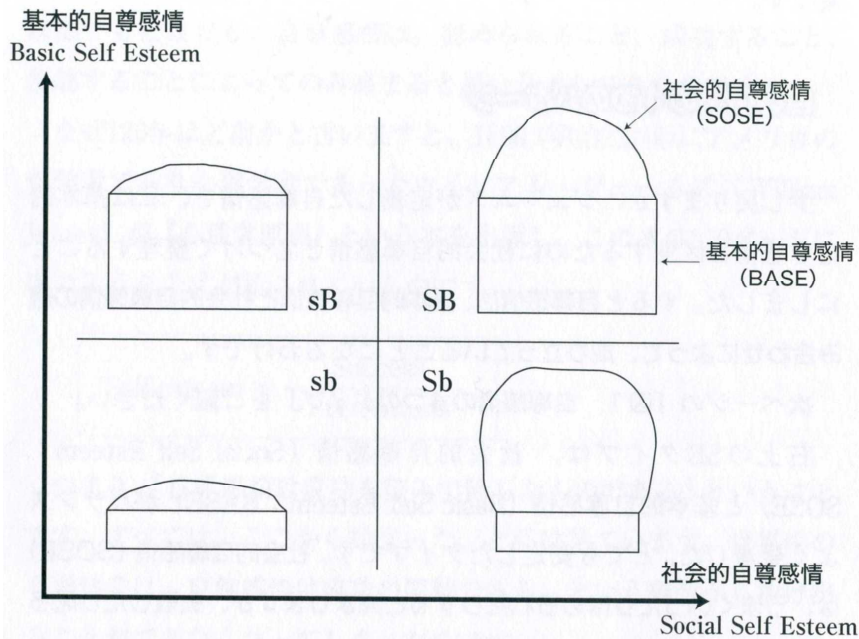
基本的自尊感情： (Basic Self Esteem) BASE	成功や優越とは無関係の感情。あるがままの自分自身を受け入れ、自分をかけがえのない存在として、丸ごとそのままに認める感情。よいところも悪いところも併せ持った自分を大切な存在として尊重する感情。
社会的自尊感情： (Social Self Esteem) SOSE	うまくいったりほめられたりすると高まる自尊感情。失敗したり、叱られたりすると途端にしぼんでしまう状況や状態に左右される感情。

自尊感情が、基本的自尊感情（BASE）と社会的自尊感情（SOSE）の組み合わせによって成り立っていることを理解した上で、BASEとSOSEの両方に注目して、子ども一人一人の自尊感情の状態を把握していきましょう。

2 自尊感情の4つのタイプ

自尊感情は、BASEとSOSEの大きさの組み合わせによって、次頁のように4つのタイプに分類できます。

図1 自尊感情の4つのタイプ



- SBタイプ：自尊感情の2つの部分がバランスよく形成されている
sBタイプ：社会的自尊感情が育っていない
のんびり屋、マイペース
sbタイプ：自尊感情の2つの部分が両方とも育っていない
孤独、自信がない
Sbタイプ：社会的自尊感情が肥大化している
頑張り屋の良い子、不安を抱えている

右上のSBタイプの子は、失敗したり叱られたりしてSOSEが落ち込んだとしても、BASEが育っていて、心をしっかりと支えているので大丈夫です。

一番成長させやすい子どもは、sBタイプの子です。仲間からの賞賛と挑戦することを教師や周りの人が促すことで、社会的自尊感情が育ち、SBタイプへと子どもを成長させることができます。

とても心配なのは、sbタイプの子です。自分に自信がなく、さびしさを抱えている子です。優しく元気づけながら、認めてあげることが必要になります。

見落としがちで、今一番危険な存在と言えるのが、Sbタイプの子です。周りの人からは、頑張り屋さんと呼ばれられることが多いですが、実はBASEが育っていないので、とても不安を抱えて生活しています。頑張らせすぎず、力を抜いて生活させ、あなたらしくいればいいよと声をかける支援が有効と考えます。

以下の文献を参考にして、子どもたちがどのタイプに分類されるかを把握し、

その子に合った実践や支援の方法を検討してみてもいいでしょうか。

参考文献：近藤卓『子どもの自尊感情をどう育てるか そばセット (SOBA-SET) で自尊感情を測る』(ほんの森出版 2013)